



# 金融 事情



## インド チェンナイ

### BOP層実態調査レポート



#### マイクロファイナンス

インドにおいて、低所得世帯にマイクロファイナンスを提供するための一般的なモデルは次の2種類がある。

- 銀行：SHG連携モデルももとは州が商業銀行を通じて推進していたモデルで、融資を求めて自発的に集まった10～20人の女性の自助グループ(SHG)に資金を貸し付けるもの。
- MFIモデル：独立の民間事業者がSHGに類するグループに資金を貸し付けるもの。

インドでは、連帯責任グループ(JLG)という概念に基づいて機能しているものが圧倒的に多い。JLGでは、グループのメンバーが受けた融資に対して借入人グループが連帯して責任を負う。マイクロファイナンスの上記2モデルが急速に浸透している(5年間で70%増加)。インドには、州を越えて顧客に融資する多数のMFIが存在しており、10大MFIは、100万以上の顧客を抱えるまで成長している。

表1－顧客数の増加－未返済勘定を持つ借入人(単位:100万人)

融資形態	2006-07	2007-08	2008-09	2009-10	2010-11
銀行－SHG連携	38.0	47.1	54.0	59.6	62.5
MFI	10.0	14.1	22.6	26.7	31.4
合計	48.0	61.2	76.6	86.3	93.9
重複調整後	44.9	56.0	70.0	71.0	76.7

出所－マイクロファイナンスの現状報告書 2011年



表2-インドの10大MFI(顧客数/融資額)

MFI	顧客数 (単位100万)	未回収融資額 (単位10億ルピー)	自己資金 (単位10億ルピー)	借入金
SKS	6.24	41.11	17.81	22.36
Spandana	4.18	34.58	NA	11.95
Bandhan	3.25	25.07	3.77	18.48
Share	2.84	20.65	3.01	20.98
Basix	1.53	12.49	2.10	12.31
SKDRDP	1.38	9.58	0.25	8.71
Asmitha	1.34	13.25	2.15	11.94
Equitas	1.30	7.94	3.04	5.92
Grama Vidial	0.93	5.20	0.90	3.47
Ujjivan	0.84	6.25	1.16	4.72
<b>合計</b>	<b>23.85</b>	<b>176.11</b>	<b>34.19</b>	<b>108.99</b>



### アーンドラ・プラデシュ州の危機

南部のアーンドラ・プラデシュ州はマイクロファイナンスがいち早く根付いた州の一つである。同州には多数のMFIが存在し幅広く融資を提供しているため、借入人は1,096万人、1世帯当たりの借入れ件数は平均10件、貧困世帯当たりの借入残高は7万1,722ルピー(約1,300米ドル)に達している。顧客の多重債務と回収関連問題の深刻化を受け、州政府が法案を可決した結果、MFIの業務運営は非常に煩雑になり、業務が実質上停止した。顧客からの返済金回収が困難になったMFIは対策を取らざるを得なくなり、今度はMFIが商業銀行から借り入れた資金が焦げ付いた。アーンドラ・プラデシュ州の状況が悪化し、MFIの債務不履行が続いたため、マイクロファイナンス部門への融資は底を尽き、小規模で脆弱な多数のMFIが事業縮小を余儀なくされた。このような困難な時期が続く間に、インド中央銀行は、MFI部門の問題点や懸案事項を調査する委員会を設立した。この委員会が提出した報告書は、マイクロファイナンス部門規制の拠りどころとなっている。規制が明瞭化された結果、融資が受けやすくなり、大手MFIに限っては事業拡大に再着手した。



### 借入人の実例

マイクロファイナンス融資は、多数の借入人にとって有益であることが分かっている。キャッシュフローをやりくりし、小規模事業を発展させる能力が高まった結果、多くの人々の生活が改善された。MFIの調査結果を見ると、融資が受けやすくなったことで顧客の所得が上昇し、貧困が緩和されていることが分かる。しかし、顧客が不当な扱いを受けたり、回収に過酷な手段が用いられたりするケースも見受けられる。顧客の中には(マイクロファイナンス融資を財源として)拡大した事業投資を管理できなかつたり、返済資金を作れなかつたりしたために、経済的困窮や動産差押えに陥った人もいる。実生活の状況を理解するため、マイクロファイナンス借入人(チェンナイ居住の低所得世帯)のケーススタディを以下に紹介する。



#### Sさん (Baruva Nagar, Teynampet在住)

Sさんは小さな仕立・衣料品を営んでいる。事業投資のため、1万ルピーの融資を3回受けた。無担保で事業運営上便利であり、利用できる他の貸付人よりも低利だったことから、マイクロファイナンスを選択した。定期分割払によるローン返済は助かるという。「マイクロファイナンス・ローンは事業拡大と家庭全体の生活水準向上に役立ちました」と話すSさん。

#### Mさん (TV Ka Colony, Teynampet在住)

Mさんはイドゥリ(蒸しパン)と果物を売る小さな店を営んでいる。事業を拡大し、所得を増やすためにマイクロファイナンス・ローンを借り入れた。しかし、事業がうまくいかなかったため、経済状態は著しく悪化し、経済面の不安が生じただけでなく、精神的ストレスも深刻化した。資金繰りがうまくいかなかったMさんはさらに借入れを増やし、気がつくと負債は返済が困難なレベルに達していた。Mさんは多額の負債を抱え、返済不可能に陥った。この債務ができる前よりも状況はずっと悪くなったと考えている。



#### Oさん (TV Ka Colony, Teynampet在住)

Oさんは仕立屋事業を立ち上げるため、2010年に初めてマイクロファイナンス・ローンを借り入れた。この事業は自身の主たる生計手段であり、定収入が得られることで、家庭の生活水準は向上した。この事業の収支差によってローンを当初の予定より早く完済できるのではないかと期待している。MFIからのローンで事業を立ち上げたOさんは、自身の所得拡大に融資が果たしたプラスの役割を評価している。

### 展望

インドのMFIは、既述のアーンドラ・プラデシュ州で活動するMFIの金融資産が減損した同州の危機からまだ完全に復活した訳ではない。金融資産の減損と規制の不明確さのため、トップクラスの一部を除き、MFIは融資できない状況にある。アーンドラ・プラデシュ州の危機に巻き込まれたMFIが事業を縮小し、他のMFIも厳しい経費引締めを続けているため、短期的にはこの分野のビジネスチャンスは限定的になろう。